

## II 教育普及事業（学校向けプログラム） について

## II. 教育普及事業（学校向けプログラム）について

長崎歴史文化博物館では、開館以来、多様な年齢層を対象に様々なプログラムを実施している。本章では、学校向けにおこなっている様々なプログラムについて、その概要を紹介する。

### 1. 博物館でおこなうプログラム

学校が博物館来館時に利用できるように展示室紹介や見学コース例、学校向けプログラムをまとめたパンフレット『学校のための長崎歴史文化博物館利用ガイド』（2005～2007年）を作成した。このパンフレットは開館当初に作成したため、見学プログラムよりも展示室紹介に重点が置かれていた。そのため2008年度からは、来館時に利用できるプログラムを充実させた『学校向けプログラム』を新たに作成し、長崎県内の小中学校や高等学校、修学旅行の下見で来館する教員に配布している。

このプログラムは大きくは「知るプログラム」「つくるプログラム」「学ぶプログラム」「お仕事プログラム」に分かれている。

#### 「知るプログラム」

博物館見学前にホールや1階エントランスなどで博物館の展示や施設の紹介や、学習の導入として長崎の歴史について所蔵資料を交えながら紹介する「博物館ガイダンス」、研究員やボランティアによる常設展示室の案内や、学習目的にあわせてテーマを絞り、テーマに沿った資料案内をする「展示室案内」、収蔵庫や荷物用エレベータなど展示室以外の博物館の施設を見学する「博物館探検」をおこなっている。

#### 「つくるプログラム」

当館には長崎の伝統工芸品の制作体験ができる「伝統文化体験工房」と「貸工房」がある。「伝統工芸体験工房」では長崎市が実施している長崎伝習所事業、長崎市伝統工芸人材育成事業において活動してきた5つの塾の塾生が、ボランティアで「長崎刺繍」「現川焼」「長崎の染め」「銀細工」「ステンドグラス」の活動を日替わりでおこない、来館者の体験をサポートしている。また貸工房では長崎の「べっ甲」や五島の「ばらもん凧」（2010年まで）、佐世保の「佐世保独楽」といった県内の伝統工芸を担う職人が交代で活動しており、作品の制作や絵付けを体験することができる。

また研究員が講師を務めるものに「長崎版画」と「拓本」がある。江戸時代の長崎でお土産品として人気があった「長崎版画」の摺り方体験や、博物館の敷地に江戸時代に建っていた長崎奉行所立山役所出土の瓦の形を、墨を使って写し取る拓本の体験である。

つくるプログラムで製作する作品の多くは、展示室内で本物を見学することができる。そのため学校団体で体験を行う場合には、制作体験と展示室見学を組み合わせることを推奨している。なぜなら体験をとおして材料や作り方を学ぶことと作品の見学をあわせてお

こなうことで、資料をより深く理解できると考えるためである。

### 「学ぶプログラム」

当館の展示に関連した長崎の歴史文化に関する質問への回答や、学校の授業に対応した利用プランにあわせて、所蔵資料をもとにおこなう講話「テーマ学習、聞き取り調査」と、長崎の有名な人物を取り上げた映像と展示室の見学をあわせて紹介する「長崎の人物調査」がある。長崎の人物調査では、子どもたちにもなじみ深いアニメを使って、「上野彦馬」「松浦静山」「天正遣欧少年使節」など県内の著名な人物について詳しく紹介したあとに、展示品を見ることで、子どもたちの学びをより深めることを目的としている。

### 「お仕事プログラム」

中学生や高校生を対象に職場体験や職場見学の受入をおこなっている。職場体験では2～3日間の期間中に接客やワークショップの事前準備、広報補助などの活動をおこなう。ただし、資料の取り扱いはおこなっていない。

また職場見学では博物館の役割や仕事、展示の特徴について研究員が紹介したり、事前に送ってもらった質問への回答をおこなう。また博物館の役割についての理解を深めるためバックヤードなど博物館の裏側を見学することもできる。

## 2. 学校でおこなうプログラム

当館では学校でおこなうアウトリーチ活動として「出張授業」「移動博物館」「遠隔授業」を実施している。

### 「出張授業」

当館の研究員が申込のあった学校に出向き、授業をおこなう。学習テーマは先生方との打ち合わせに基づき決定し、テーマに沿った所蔵資料の複製品や学習素材を学校に持ち込む形式で、年間で5、6校程度実施している。出張授業は2009年度から「協力校、パートナーズ・プログラム」参加者を対象に行っていたが、2011年度からは対象を広げ、長崎県内の小中学校や高等学校向けに実施している。

### 「移動博物館」

2008年度からは遠隔地やその他の理由で来館することが困難な学校や福祉施設を対象に、所蔵資料の複製品や学習素材を館用車で学校に持ち込み、体育館や空き教室、エントランスなどを使って、博物館のミニ展示をおこなう「移動博物館」を実施している。1日で設営・実施・撤去をおこなうため、実施時間は3～4時間を想定していて、展示資料の輸送費・保険料・館研究員の旅費は博物館側で負担し、会場提供・展示什器の準備（机・パネルなど）は申請者に提供してもらっている。離島からの申込があった場合にも移動時間を考慮しながら対応しており、2011年度には佐世保市立宇久中学校、五島市立本山小学校で

移動博物館をおこなっている。

展示資料は江戸時代を中心としており、6年生を対象にすることが多いが、体験用の学習素材も多くあるため全学年に開放する学校も多い。1年生が南蛮屏風の絵合わせや、出島や唐人屋敷のパズルを組み立てる姿もよく見られる。

### 「遠隔授業」

学校と博物館をインターネット回線をつなぎ、テレビ会議システムを使った授業を「遠隔授業」と呼び、離島などの当館への来館が困難な地域を対象に、開館時から実施している。2005年度から2007年度までは長崎県立壱岐高等学校と年間2回(2005年度は1回のみ)実施した。2008年度・2009年度には長崎県立壱岐高等学校、壱岐市立盈科小学校と年間1回ずつの実施となった。

2010年度からは会場を壱岐市から五島列島の小値賀町に移し、小値賀町立小値賀小学校と小値賀町立小値賀中学校の2校と、それぞれ年に1回実施した。授業テーマは先生との打ち合わせに基づき決定し、指導案は博物館で作成している。授業では博物館が一方的に話すのではなく、テレビ会議システムの利点を生かし、参加する児童や生徒と対話をしながら、資料を詳しく見ていく形式でおこなっている。

当館の資料の中には教科書に掲載されている資料も多く、社会科や歴史の授業と関連づけたり、特に小学校の場合は修学旅行で長崎市を訪れるため、修学旅行の事後指導としても活用している。

### 「貸出教材」

「寛文長崎図屏風」など教科書に掲載されている資料を中心に、写真を拡大したパネルや「長崎の人物調査」で述べた「上野彦馬」「天正遣欧少年使節」「松浦静山」について紹介したDVDの貸出も行っている。

### 「ワークシート」「館内マップ」

常設展示室のコーナーごとに1枚のワークシートを作成して、当館のホームページで掲載している。また各コーナーの見所や博物館見学のマナーを紹介した「館内マップ」はホームページでの掲載や、入館時に希望者に配布している。

最後に、これらの「学校向けプログラム」は開館当初から全てが整っていたわけではない。2008年度にはじまった博物館と学校の教員との連携事業「協力校、パートナーズプログラム」をはじめ、学校の教員とのさまざまな連携事業をとおして、少しずつ整えていったものが現在の「学校向けプログラム」となった。

(当館教育普及グループ 研究員 下田幹子)

〔凡例〕

協力校・パートナーズプログラム参加者の所属校名は、報告書提出時のものです。